

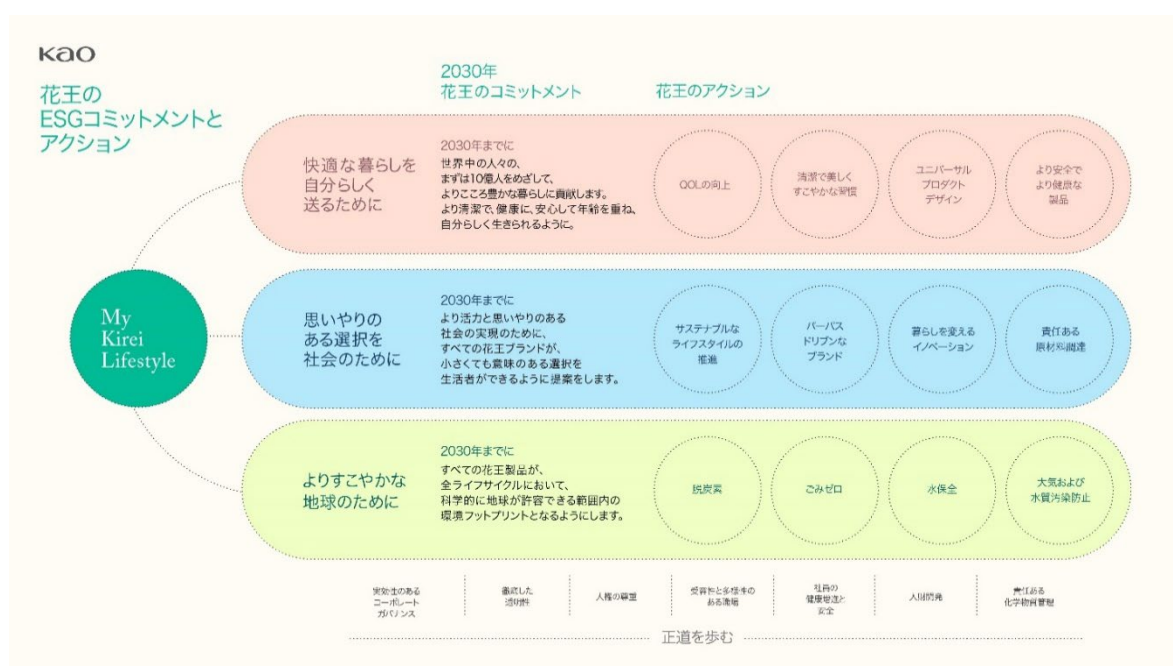
花王、ESG 戦略「Kirei Lifestyle Plan」の進捗状況を公表 ～社内炭素価格改定、ESG ガバナンス体制の強化、生物多様性の方針の改訂を実施～

花王株式会社(社長・長谷部佳宏)は、本日 6 月 29 日、ウェブサイトで「花王サステナビリティレポート 2022」を公開し、ESG 戦略「Kirei Lifestyle Plan」(キレイライフスタイルプラン)の進捗状況を公表しました。重点取り組みテーマの 2021 年の実績に加え、「脱炭素」推進に向けた社内炭素価格の 18,500 円/トン・CO₂ への引き上げ、ESG ガバナンス体制の強化に向けた「ESG ステアリングコミッティ」の設置、生物多様性の方針の改訂など、新たな取り組みを開示しています。

花王サステナビリティレポート 2022

<https://www.kao.com/jp/corporate/sustainability/pdf/#area-LocalNavBottom01>

花王は約 130 年にわたり、人々の暮らしに寄り添うことで、ここら豊かな暮らしの実現をめざしてきました。2019 年 4 月には、生活者のニーズが高まっている持続可能な暮らしを「Kirei Lifestyle」とし、それを実現するための ESG 戦略「Kirei Lifestyle Plan」を策定。19 の重点取り組みテーマを設定しています。また、2021 年からは、「未来のいのちを守る～Sustainability as the only path」をビジョンに掲げた中期経営計画「K25」をスタートしています。今後も、経営に ESG の視点を導入し、事業の発展と消費者や社会へのよりよい製品・サービスの提供をめざし、パーパスである「豊かな共生世界の実現」に向けて取り組んでまいります。



「Kirei Lifestyle Plan」の進捗状況の公表にあたり、取締役 常務執行役員 ESG 部門統括の Dave Muenz（デイブ・マンツ）は、「より持続可能な社会の実現に向けて、花王のような企業が貢献することに対するステークホルダーからの期待は年々高まっています。長年守り続けてきた、たとえ困難であろうとも人と地球にとって正しいことを実行する、という価値観である『正道を歩む』を原動力に、花王は生活者 により影響をもたらす存在であり続けるため、脱炭素では、2040 年にカーボンゼロ、2050 年にカーボンネガティブをめざす目標を設定するなど、多くの取り組みを 2021 年に実施しました。今年に入ってから、『脱炭素』『プラスチック包装容器』『人権・DEI^{*1}』および『化学物質管理』を扱う4つの『ESG ステアリングコミッティ』を設置し、ESG のガバナンス体制をさらに強化しました。また、パーム油などの自然資本に依存する企業として、サプライチェーン全体のトレーサビリティの確保や、お取引先への第三者監査の実施によるリスク特定のため、新たな調達ガイドラインを公表しました。花王はこれからも協働とパートナーシップを通じ『豊かな共生世界の実現』をめざしていきます」としています。

* 1 Diversity・Equity・Inclusion

こうした取り組みが評価され、国際 NPO である CDP が実施している「気候変動」「フォレスト」「水セキュリティ」のすべての調査で、最高評価である「A リスト企業」に 2 年連続で選定されました。また、米国のシンクタンク Ethisphere Institute（エシスフィア・インスティテュート）の「World's Most Ethical Companies®」（世界で最も倫理的な企業）には 16 年連続で選定されています。

2021 年 12 月 ニュースリリース

花王、昨年に続き、CDP から「気候変動」「フォレスト」「水セキュリティ」の分野で最高評価を獲得

<https://www.kao.com/jp/corporate/news/sustainability/2021/20211208-001/>

2022 年 3 月 ニュースリリース

花王、16 年連続で「World's Most Ethical Companies®」（世界で最も倫理的な企業）に選定

<https://www.kao.com/jp/corporate/news/sustainability/2022/20220316-001/>

■「Kirei Lifestyle」推進に向けた新たな取り組み

1. 「脱炭素」推進に向けた社内炭素価格の 18,500 円/トン-CO₂ への引き上げ

CO₂ 排出量を抑制するために 2006 年から社内炭素価格制度を導入しています。昨年、新「脱炭素」目標を公表し、スコープ 1+2^{*2} の CO₂ 排出量（絶対量）の目標を 2030 年までに「22%削減」から、「55%削減」（基準年 2017 年）に改定。その一環として、社内炭素価格を引き上げています。今回、価格を従来の 3,500 円/トン-CO₂ から 18,500 円/トン-CO₂^{*3} に変更したことを公表し、新たな価格のもと、省エネルギーな設備や CO₂ 排出量が少ない設備の導入、再生可能エネルギーの調達を推進していきます。

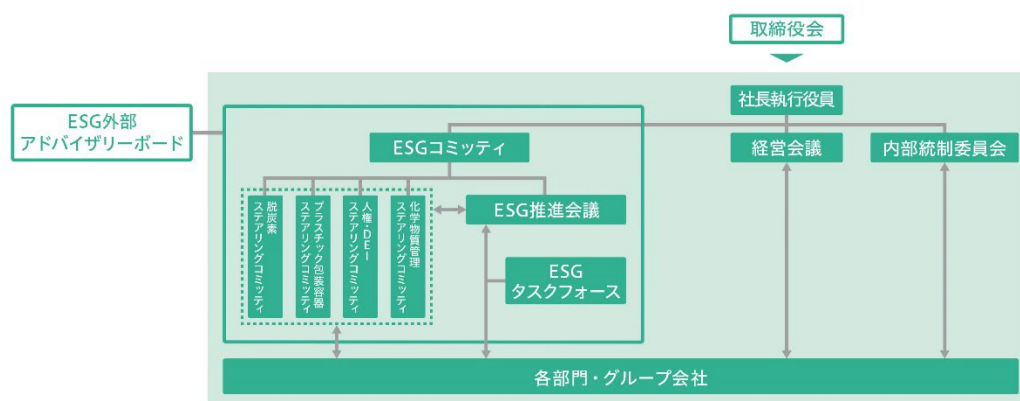
* 2 企業・組織が自ら排出する温室効果ガス量

*3 今後新規に導入する設備は 2030 年以降も稼働していると想定し、IEA World Energy Outlook2021 より 2035 年における炭素税として花王が想定

2. ESG ガバナンス体制の強化に向けた「ESG ステアリングコミッティ」の設置

グローバルの大きな変化に対するレジリエンスを強化すると共に、事業機会の拡大を確実にするため、柔軟で強靱な ESG ガバナンス体制を構築しています。ガバナンス体制は、取締役会の下、社長執行役員および配下の各組織体で構成されており、ESG 戦略に関する活動の方向性を議論、決定し、取締役会に活動状況を報告する「ESG コミッティ」、社外の視点を反映させるため外部有識者で構成される「ESG 外部アドバイザリーボード」、ESG 戦略を遂行するための「ESG 推進会議」、注力テーマについて活動を提案する「ESG タスクフォース」があります。「ESG コミッティ」は経営層、「ESG 推進会議」は事業部門、リージョン、機能部門、コーポレート部門の責任者で構成することで、課題について迅速に経営判断を行ない、各部門が ESG 活動を進めることができます。

2022 年 4 月からは、ESG への取り組みを確実にかつ迅速に実行に移すために、「脱炭素」「プラスチック包装容器」「人権・DEI^{*1}」「化学物質管理」の 4 つの重点課題に対し「ESG ステアリングコミッティ」を新たに設置しています。役員クラスがオーナーを務め、「ESG コミッティ」と連動し、各部門・グループ会社に提言を行ないます。各部門では、ESG を部門方針、目標、計画に組み込み、実効性のあるガバナンスを構築。グローバルのグループ会社も各部門が運営し、活動内容に応じて適宜グループ会社単位で運営しています。



ESG ガバナンス体制

3. 生物多様性の方針の改訂

花王はパーム油や紙・パルプなど多くの生物資源の恩恵を受けて事業を行なっています。2011 年に「生物多様性保全の基本方針」を策定し、持続可能な原材料調達や生物多様性保全に貢献する新しい技術の開発等に取り組んできました。現在世界は、自然や生物多様性に対する悪影響を減らすと共に、ポジティブな影響を与える行動を増やし、生物多様性を損失から回復へと反転させることをめざしています。2021 年の国連気候変動枠組条約第 26 回締約国会議(COP26)で生物多様性に関する目標が見直されたのを

機に、既存の方針を改訂し、2022 年 4 月に新たに「生物多様性の基本方針」を策定しました。生物多様性の保全と回復、さらに自然を再生へ導く行動を進め、自然と共生する未来の実現に貢献していきます。

生物多様性の基本方針

<https://www.kao.com/content/dam/sites/kao/www-kao-com/jp/ja/corporate/sustainability/pdf/biodiversity-basic-policy.pdf>

■主な重点取り組みテーマ 2021 年活動実績

脱炭素

2040 年カーボンゼロ、2050 年カーボンネガティブの実現に向け、事業活動における CO₂ 排出量削減に加え、社会の排出量削減や、大気中の炭素の固定化を通じ脱炭素社会への貢献をめざします。

2021 年 5 月に 2040 年カーボンゼロ、2050 年カーボンネガティブをめざす、新たな「脱炭素」目標を公表しました。その達成に向けて設定した中長期目標は、国際的なイニシアチブである SBTi (Science-based Targets イニシアチブ) から「1.5°C 目標」の認証を取得しており、事業の使用電力を 100% 再生可能エネルギーで賄うことをめざす国際的なイニシアチブ「RE100」にも加盟しています。また、2022 年 4 月には 2021 年の「脱炭素」実績も公表しています。

2021 年 5 月 ニュースリリース

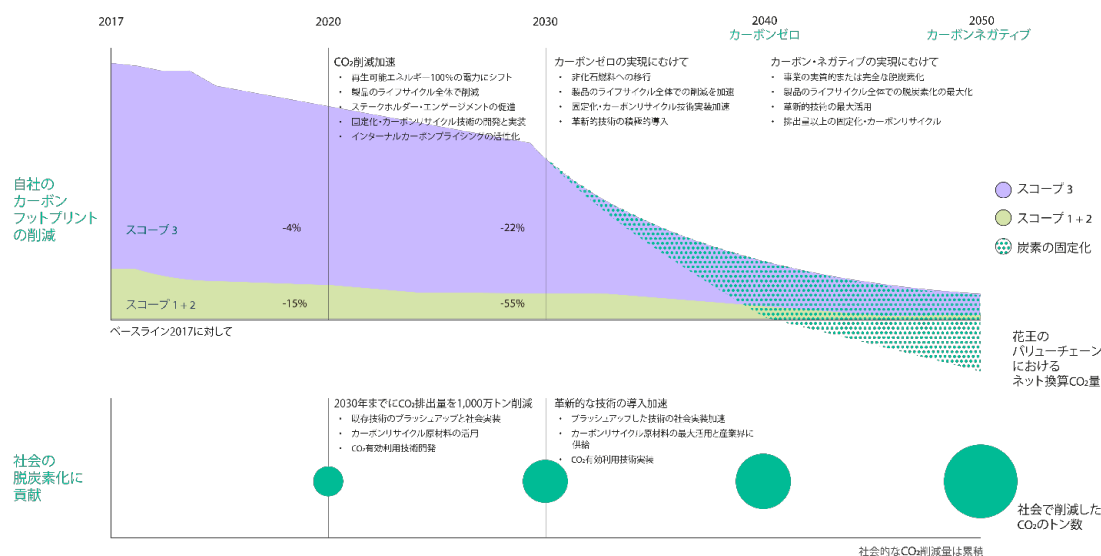
新たな「脱炭素」目標を策定 2040 年カーボンゼロ、2050 年カーボンネガティブをめざす

<https://www.kao.com/jp/corporate/news/sustainability/2021/20210519-001/>

2022 年 4 月 ニュースリリース

2040 年カーボンゼロ、2050 年カーボンネガティブ実現に向けた活動を加速

<https://www.kao.com/jp/corporate/news/sustainability/2022/20220426-002/>



すべての人に Kirei Lifestyle を — 花王の脱炭素目標

2021 年実績

- スコープ 1+2 *2CO₂ 排出量(絶対量)を 2030 年までに 55%削減(基準年 2017 年)※SBTi「1.5℃目標」認定
2021 年実績:20% (2020 年 15%)
- 製品ライフサイクル*4 CO₂ 排出量(絶対量)を 2030 年までに 22%削減(基準年 2017 年)※SBTi「1.5℃目標」認定
2021 年実績:4% (2020 年 4%)
*4 原材料調達・製造・輸送・使用・廃棄で排出する CO₂ 量(スコープ 1、スコープ 2、スコープ 3 の一部)
- 使用電力における再生可能エネルギー化比率を 2030 年までに 100% ※「RE100」加盟
2021 年実績:38% (2020 年 28%)

責任ある原材料調達

資源保護、環境保全や安全、人権などに配慮した原材料を調達するとともに、トレーサビリティの確保に努め、サプライヤーとの対話を通じ、よりサステナブルな原料調達をめざします。

■ 「調達に関わるサプライチェーン ESG 推進ガイドライン」を公表

2021 年 6 月に「調達に関わるサプライチェーン ESG 推進ガイドライン」を公表しました。社会的責任への配慮や環境への配慮を取引先に求めている「調達先ガイドライン」の周知を図り、第三者監査を含めて遵守状況を確認。違反がある場合は、改善指導や取引の中止など、適切に対応していきます。また、花王が調達する原材料の中から、人権・環境の課題が大きなサプライチェーンを「ハイリスクサプライチェーン」として特定。現場での対話を通じてリスクを把握し、課題の本質を見極め、取引先や NGO と解決に向けて取り組み、進捗を公表していきます。

なお、「調達に関わるサプライチェーン ESG 推進ガイドライン」を含む、「責任ある原材料調達」に関するガイドラインは、2022 年 6 月に、花王の調達がめざす姿が取引先によりわかりやすく伝わるよう再整理しました。従来の「調達基本方針」のもと、「調達先ガイドライン」は「お取引先に求めるパートナーシップ要件」に改訂。要件として新たに、多様性と受容性のある職場環境の構築と製品ライフサイクル全体の脱炭素推進を追加しています。また、「調達に関わるサプライチェーン ESG 推進ガイドライン」は「お取引先との ESG 推進活動」、「原材料調達ガイドライン」は「ハイリスクサプライチェーンからの調達」として改訂し、ウェブサイトに関開しています。

「責任ある原材料調達」

<https://www.kao.com/jp/corporate/sustainability/topics-you-care-about/procurement/>

2021 年 8 月 ニュースリリース

「調達に関わるサプライチェーン ESG 推進ガイドライン」を策定 取引先に対し、第三者監査を実施

<https://www.kao.com/jp/corporate/news/sustainability/2021/20210824-002/>

■ サステナブルなパーム油の調達

花王の主な原材料のひとつであるパーム油に関しては、サステナブルな調達の実現に向けて、持続可能なパーム油に対する認証(RSPO^{*5} 認証)油の購入とインドネシアの小規模パーム農園の支援を実施しています。RSPO^{*5} 認証油の購入については、2025 年までに消費者向けおよび産業用途向けに使用するパーム油を 100%RSPO^{*5} 認証油とすることをめざしており、2021 年の実績は、27%となっています。また、2020 年に開始したインドネシア



アの小規模パーム農園の支援プログラム「SMILE」(SMallholder Inclusion for better Livelihood & Empowerment program)では、油脂製品製造・販売会社のアピカルグループ、農園(プランテーション)会社のアジアナグリの2社と共に、パーム油の持続可能なサプライチェーンの構築をめざし、インドネシアの小規模パーム農園の生産性向上、RSPO^{*5} 認証の取得を支援しています。

* 5 Roundtable on Sustainable Palm Oil、持続可能なパーム油の生産と利用を促進するための円卓会議

2020 年 10 月 ニュースリリース

花王、アピカルグループ、アジアナグリがインドネシアの小規模パーム農園の支援プログラム「SMILE」を開始

<https://www.kao.com/jp/corporate/news/sustainability/2020/20201014-001/>

2022 年 4 月 ニュースリリース

インドネシア小規模パーム農園支援進捗について

<https://www.kao.com/jp/corporate/news/sustainability/2022/20220413-001/>

2021 年実績

- 家庭用製品に使用した認証紙製品・パルプの比率 2025 年までに 100%
2021 年実績:96%(2020 年:94%)
- 小規模パーム農園までのトレーサビリティの確認 2025 年までに完了
2021 年実績:油脂サプライヤーが管理する自社農園まで完了(2020 年:油脂サプライヤーが管理する自社農園まで完了)

ごみゼロ

「もったいない」の精神で、使い終わった容器包装や製品の役割を変えて最後まで余すことなく使うことで、ごみゼロ社会の実現への貢献をめざしています。

現在花王は、包装容器としてプラスチックを 106 千トン、うち化石由来のプラスチックを 104 千トン使用していますが、2030 年までに花王が使用する包装容器への化石由来プラスチックの使用量をピークアウト^{*6}し、

2040 年には「ごみゼロ」*7、2050 年には「ごみネガティブ」*8 をめざします。また社会全体のプラスチック包装容器の使用量削減へ向けた貢献を最大化し、2030 年までに花王および社会が包装容器で使用するプラスチックの削減貢献量*9 を 200 千トンにすることをめざします。

*6 前年よりも使用量を減らす

*7 花王のプラスチック包装容器使用量と花王がプラスチック再資源化に関与した量(花王の独自技術により価値あるものに変換するポジティブリサイクルをしたプラスチック量+花王が包装容器で使用した再生プラスチック量+花王が社会と共に回収・リサイクル・ペレット化し社会が使用したプラスチック量)が等しい状態

*8 花王のプラスチック包装容器使用量より、花王がプラスチック再資源化に関与した量が多い状態

*9 革新的フィルム容器、つめかえ・つけかえ、濃縮化により削減された量

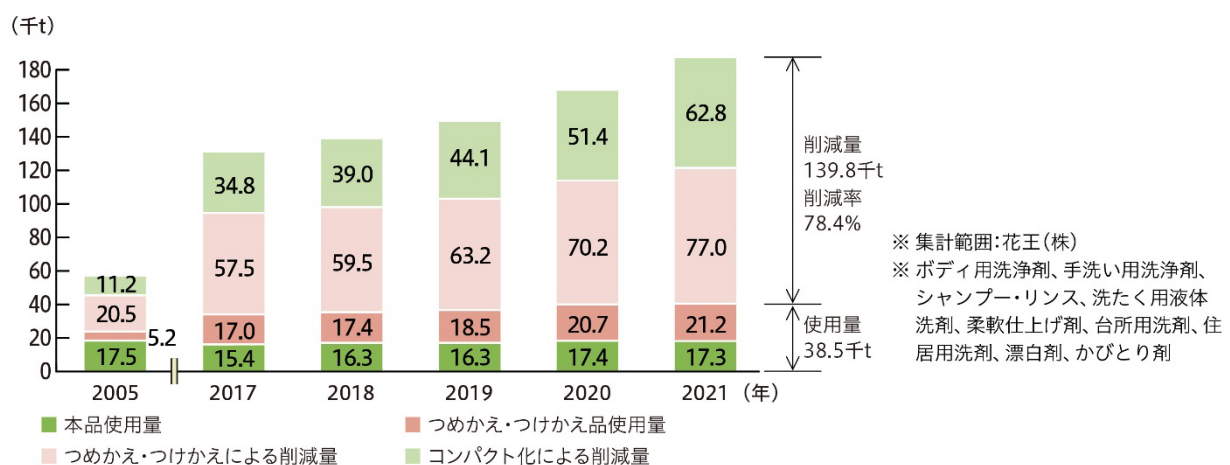
このようなプラスチック循環社会の実現に向けて、「私たちのプラスチック包装容器宣言」で公表した「リデュース」(減らす)、「リユース」(再利用する)、「リサイクル」(再資源化する)、「リプレイス」(置き換える)の 4R の観点から、「リデュースイノベーション」「リサイクルイノベーション」に取り組んでいます。

私たちのプラスチック包装容器宣言(2018 年 10 月策定)

<https://www.kao.com/content/dam/sites/kao/www-kao-com/jp/ja/corporate/sustainability/pdf/plastic-packaging-001.pdf>

■ 「リデュース」におけるつめかえ・つけかえの促進

「リデュースイノベーション」のひとつであるつめかえ・つけかえの促進では、日本の花王におけるつめかえ・つけかえ製品の数 は 380 品目(2021 年 12 月時点)に上り、普及率は 83%となっています。また、全品が本品容器とした場合と比較して、つめかえ・つけかえ製品によるプラスチック削減量は 77.0 千トンとなります。製品の濃縮化による効果を加えると 139.8 千トン、削減率は 78.4%となっています。



つめかえ・つけかえ製品のあるカテゴリーのプラスチック使用量と削減量の推移

また、消費者に商品特徴や正しい使用方法を伝達できるメリットがある反面、プラスチック使用量が増え、プラスチックごみや廃棄時の CO₂ が増大するといった課題があった「プラスチック製アイキャッチシール」について、海外含め花王グループ全体で廃止を達成しています。

2020 年 3 月 ニュースリリース

「プラスチック製アイキャッチシール廃止」を推進

<https://www.kao.com/jp/corporate/news/sustainability/2020/20200317-002/>



2022 年 1 月 ニュースリリース

プラスチック使用量削減に向け「プラスチック製アイキャッチシール」添付商品の生産を終了

<https://www.kao.com/jp/corporate/news/sustainability/2022/20220112-001/>

■ 「リサイクル」における他企業・団体と連携した実証実験の推進

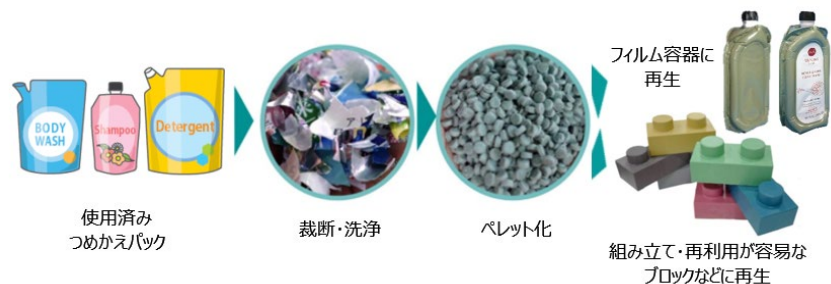
2021 年は特に「リサイクルイノベーション」において、他企業・団体と連携した多くの実証実験を推進しました。薄いフィルム素材を使用した容器(つめかえパック)やボトル容器の水平リサイクル、化粧品包装容器におけるケミカルリサイクル素材の活用・ケミカルリサイクルの実施といった包装容器を対象とした活動以外に、使用済み紙おむつのリサイクルや、廃 PET を使用したアスファルト改質剤「ニュートラック 5000」を展開しています。

① フィルム容器(つめかえパック)からフィルム容器への水平リサイクル

2020 年 10 月からライオンと協働

でイトーヨーカドー曳舟店にて、
2021 年 10 月からはウエルシア薬
局と実証実験を開始しています。

また、同じく 2021 年 10 月より、神
戸市と小売、日用品メーカー、リ



サイクラー(再資源化事業者)が協働して日用品の使用済みつめかえパックをリサイクルし、資源循環型社会の実現をめざす「神戸プラスチックネクスト ～みんなでつなげよう。つめかえパックリサイクル～」プロジェクトにも参加しています。

2020 年 9 月 ニュースリリース

プラスチック包装容器資源循環の推進に向けて花王とライオンがリサイクリーション活動の協働を開始

<https://www.kao.com/jp/corporate/news/sustainability/2020/20200910-002/>

2020 年 11 月 ニュースリリース

花王・ライオンが協働してリサイクル実証実験を開始

<https://www.kao.com/jp/corporate/news/sustainability/2020/20201104-003/>

2021 年 7 月 ニュースリリース

花王とライオンの協働によるリサイクル実証実験の進捗について

<https://www.kao.com/jp/corporate/news/sustainability/2021/20210709-001/>

2021 年 9 月 ニュースリリース

つめかえパックの「水平リサイクル」をめざすプロジェクト「神戸プラスチックネクスト ～みんなでつなげよう。つめかえパックリサイクル～」に参加

<https://www.kao.com/jp/corporate/news/sustainability/2021/20210929-001/>

2021 年 10 月 ニュースリリース

花王・ライオンとウエルシア薬局・ハマキョウレックスが使用済みつめかえフィルム容器のリサイクル実証実験を開始

<https://www.kao.com/jp/corporate/news/sustainability/2021/20211027-001/>

② ボトル容器からボトル容器への水平リサイクル

2021 年 6 月から、ユニリーバ・ジャパンと協働で東大和市で実証実験を開始しました。12 月からは P&G ジャパン、ライオンが加わり、4 社で実施しています。

2021 年 5 月 ニュースリリース

ユニリーバ・ジャパン、花王が協働回収プログラム「みんなでボトルリサイクルプロジェクト」を開始



<https://www.kao.com/jp/corporate/news/sustainability/2021/20210518-001/>

2021 年 9 月 ニュースリリース

ユニリーバ・ジャパンと花王の協働回収プログラム「みんなでボトルリサイクルプロジェクト」の進捗について

<https://www.kao.com/jp/corporate/news/sustainability/2021/20210908-001/>

2021 年 12 月 ニュースリリース

「みんなでボトルリサイクルプロジェクト」4 社共同での実証事業へ

<https://www.kao.com/jp/corporate/news/sustainability/2021/20211213-002/>

③ 化粧品包装容器におけるケミカルリサイクル素材の活用・ケミカルリサイクルの実施

2021 年 6 月より、化粧品ブランド「トワニー」のボトルを皮切りに化粧品のボトル容器にケミカルリサイクル PET 素材の採用を開始。現在期間限定で、使用済みの容器を回収し、ボトル容器からボトル容器への水平リサイクルの実証実験も実施しています。



2021 年 5 月 ニュースリリース

花王、化粧品でプラスチックボトルの水平リサイクルをめざしケミカルリサイクル PET 素材の採用を開始

<https://www.kao.com/jp/corporate/news/sustainability/2021/20210526-001/>

2022 年 1 月 ニュースリリース

花王、使用済みボトルの店頭回収と再生化にむけた実証実験を開始

<https://www.kao.com/jp/corporate/news/sustainability/2022/20220127-002/>

2022 年 6 月 ニュースリリース

花王、ファンデーションの中皿にケミカルリサイクル PET 素材を採用

<https://www.kao.com/jp/corporate/news/sustainability/2022/20220616-001/>

④ 使用済み紙おむつのリサイクル

2021 年 1 月から、京都大学と共に愛媛県西条市の協力のもと、「使用済み紙おむつの炭素化リサイクルシステム」の確立に向けた実証実験を開始しました。使用済み紙おむつを炭素素材へ変換し、CO₂ 排出量削減による環境負荷低減に貢献していきます。2023 年までに炭素素材への変換技術を確認し、2025 年以降の社会実装を予定しています。

2021 年 1 月 ニュースリリース

花王と京都大学、「使用済み紙おむつの炭素化リサイクルシステム」の実証実験を愛媛県西条市で開始

<https://www.kao.com/jp/corporate/news/sustainability/2021/20210114-001/>

2022 年 2 月 ニュースリリース

花王と京都大学の「使用済み紙おむつの炭素化リサイクルシステム」実証実験の進捗について

<https://www.kao.com/jp/corporate/news/sustainability/2022/20220224-001/>



⑤ 廃 PET を使用したアスファルト改質剤「ニュートラック 5000」

ケミカル事業で展開するアスファルト改質剤「ニュートラック 5000」は、廃棄される PET 素材をそのまま混ぜ込むのではなく、独自技術によって改質剤に変換し、添加したアスファルト舗装の耐久性を最大で 5 倍高めることができます。アスファルト舗装が高耐久化する



ことで、路面の損傷が低減し、補修工事に伴う CO₂ の発生を抑制することが可能です。また、多額の費用をかけずに利用者にとって安心安全な道路を長期間提供することにもつながります。

2021 年 1 月 ニュースリリース

花王が開発した廃 PET を原料にリサイクルした高耐久アスファルト改質剤をウエルシアが新店舗駐車場舗装に初採用

<https://www.kao.com/jp/corporate/news/rd/2021/20210121-002/>

2021 年 3 月 ニュースリリース

花王の開発した廃 PET を用いた高耐久アスファルト改質剤が自治体として初めて静岡県磐田市に採用

<https://www.kao.com/jp/corporate/news/rd/2021/20210322-001/>

2022 年 4 月 ニュースリリース

「グリーン舗装」廃 PET を活用したアスファルト舗装の高耐久化技術が「ジャパン・レジリエンス・アワード（強靱化大賞）2022」の準グランプリ・金賞を受賞

<https://www.kao.com/jp/corporate/news/rd/2022/20220427-003/>

2021 年実績

- <新> 包装容器への化石由来のプラスチック使用量 2030 年までにピークアウトさせる
2021 年実績: 104 千トン(2020 年: 116 千トン)
- 革新的なフィルム容器の年間普及量(花王+社外) 2030 年までに 3 億個
2021 年実績: 1,100 万個(2020 年: 700 万個)
- プラスチックアイキャッチシール廃止率 2021 年までに 100%
2021 年実績: 100%(2020 年: 73%)
- <新> プラスチック包装容器への再生プラスチックの使用率
※2030 年までの目標値は 2023 年に開示予定
2021 年実績: 1.3%(2020 年: 0.4%)
- 回収パウチを使用した革新的フィルム容器の実用化 2025 年までに上市
2021 年実績: 開発継続(2020 年: 開発継続)
- <新> PET 容器への再生プラスチックの使用率(日本) 2025 年までに 100%
2021 年実績: 19%(2020 年: 0%)
- <新> 花王の拠点(生産拠点から開始)から排出された廃棄物量に占めるリサイクルされない廃棄物量の比率 2030 年までにゼロ(1%未満)
2021 年実績: 9.1%
- <新> 製品廃棄物・販促物廃棄物の削減率 2030 年までに 95% (基準年 2020 年)
2021 年実績: 14%

※<新>は、新たに追加した目標、指標や目標値の変更を含む

<関連情報>

■花王、ESG 戦略「Kirei Lifestyle Plan」を発表

<https://www.kao.com/jp/corporate/news/sustainability/2019/20190422-001/>

■花王のサステナビリティ

<https://www.kao.com/jp/corporate/sustainability/>

■花王統合レポート 2022

<https://www.kao.com/jp/corporate/investor-relations/library/reports/>